



窪町だより

窪町小学校令和7年度7月号

窪町小学校ホームページ URL: <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/kubomachi-ps/>

「その一コマⅡ」

西幅 孝弘

教員という仕事をされていてうれしい時は数限りなくあります。少々きつく、きびしいと表現される私たちの仕事は「ブラック」と色に例えられることもあります。しかし私は「ゴールド」と感じる時の方が圧倒的に多いです。昨日までとは違う子どもの成長がみられた時の喜び、結果は出ないけどあきらめなくて頑張っているときの一緒に熱くなる感じ、困難を乗り越えて子どもたちが何かをやり遂げたときの歓喜、子どもの示す言動の中に見る純粋な思いやりや美しい心に感動し温かい気持ちになることがその大きな要因です。もしかしたら、ゴールドをたくさん見つけたら日常が変わるという深層心理もどこかにあったかもしれません。子どもたちの示す小さな頑張りや成長、よさを見つけて励まして支えて、しかも自分も喜びにあふれ感動する。という幸せのサイクルがこの仕事の醍醐味ですし、ゴールドの所以です。

子どもたちの姿に感動することが多いのですが、地域の方や保護者の方々の一コマが胸に刻まれることも稀ではありません。感じ方は教員も一人一人違いますので人によって異なります。しかし、「一コマ」に魅せられる教員は多いと感じています。繰り返されれば「一コマ」を大事にするでしょう。物質的な豊かさよりも心の豊かさがウェルビーイングにつながりやすいのなら、私たちの営みは幸福度がとても高いのだと感じます。



例えば5年生のハケ岳では、美しい自然の中での活動も素晴らしいのですが、天井の高い広々とした食堂でみんなで食べるごはんの時間も印象に残りました。楽しい話声と食事係の奮闘そして何よりも「すべての子」が、横着をすることなく、すすんで片付けをしている姿が素敵でした。食器のふれる音を聴きながら協力して働くその様子を見ているだけでうれしくてたまりませんでした。

<机>

少し古い話ですが、学級担任をしているときにうれしかった光景の一つに、子どもの背が伸びて机といすの高さを変えてあげるときにありました。工具を使って高さの合わなくなった古い机のサイズを変えます（以前は高さを変えられるものが主流でした）。何か所もねじを緩めて高さを変えてしめなおします。その様子をじっと見ている子どもは、恥ずかしいようでもあり、誇らしいようでもあり、うれしさもあり何とも言えないやわらかい表情をしています。「大きくなっただね。」「うん。」周りの子も次は「ぼくも」、「わたしも」・・・と、まだサイズが合っているのに声をかけてくれます。こうして学年末には全員がやわらかい顔をみせてくれます。作業をしているとき、そばに立っている子どもの気持ちが伝わってきて私はとてもうれしい一コマを味わいます。子どもが成長するってということが自分にとってこんなにもうれしいことなんだと強く感じたことを覚えています。

<連絡帳>

「おうちの人への連絡だから見ちゃだめだからね。」と念を押します。すると子どもは見たくなくなります。私は連絡帳にときどきその子が頑張ったことや友だちへのやさしさをみせてくれた場面を書きます。気が付くと教室の隅でそっと小さく開いているかわいらしい子どもの様子が目に入ります。「あなたのよさを知ってるよ。」「おうちの人にも伝えたいんだ。」というメッセージが子どもの表情を生き生きとさせ、微笑ましい一コマになります。家に帰っておうちの人にほめられている様子を想像すると私までうれしくなります。学校でもおうちでも認められることで、その一コマは子どものこころに染み込んでいき、また頑張ってみたいという気持ちを大きくしてくれます。

今日も現在進行形の一コマを私たちは毎日目にしています。その後ろにみなさまのご協力も感じています。A4サイズの紙面では伝えきれませんが心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

窪町会報告

6月15日(日)の午前中に教職員 OB・OG 会が、午後は同窓会が開催されました。午前中には34年前の校長先生 安田太一様、29年前の校長先生 村上 今雄 様、20年前の校長先生 石井 梅雄 様、金子 義則先生(現青柳小)もお見えになり、教職のすばらしさや思い出を語っていただきました。午後に実施された同窓会には、多くの中学生の中に75年前の卒業生の方もいらっやってくださいました。窪町小を愛し、子どもたちのことを想うお姿に感銘を受けました。

心より厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

魚沼移動教室

(6年魚沼担当)

6月26日からの3日間、魚沼移動教室に行ってきます。スローガンは、造語「魚沼る」です。魚沼の魅力の沼にどっぷり浸かってしまおう！加えて、協力や責任ある行動を大切にすることの意味で、実行委員が考えました。

初日は、自然を体験するネイチャーゲームウォークからのキャンプファイヤー、2日目は、飯ごう炊さんのカレー作りに、魚沼市を回る「ゆのたにフォトラリー」。最終日は、魚沼杉を使った箸作りと様々な体験をする予定です。

3日間の中では、お世話になる方への挨拶や宿舎を綺麗に使うことなど、基本的な礼儀を身に付けることはもちろんですが、何よりも友達と過ごすことができる3日間です。かけがえのない思い出にできるように、一人ひとりが準備や計画に勤しんでほしいと願っています。

保護者のみなさまにおかれましては、持ち物の準備や生活習慣の声掛けなど、様々ご支援いただきありがとうございます。笑顔で「楽しかった！」と帰ってくるお子さんのことを温かく迎えていただけたらと思います。教職員一同、安全安心に3日間過ごせるように全力でサポートして参ります。

人権教育について

(人権教育担当)

昨今、いじめをはじめとする様々な人権上の問題が顕在化してきています。本校では、「自分を大事にすることができる児童」「ちがいを認め合い人を大切にすることができる児童」の育成を目指し、年間を通じて人権教育を実施しています。

取組の一つとして、「ほわほわ言葉の木」があります。「ほわほわ言葉」とは、言葉にして言ったり聞いたりすると「うれしくなる言葉」や「温かい気持ちになる言葉」のことです。思いやりの言葉が学校に溢れるようにとの願いを込めて、玄関の中央の柱に掲示しています。

また、6月・11月・2月の「ふれあい月間」には、いじめをテーマとした学習活動に取り組むことで、いじめを生まない、許さない学級風土の構築を目指します。

5月・12月には「いのちと人権を考える月間」を設けています。

人権感覚はすぐに身に付くものではありません。日頃から、各学年、各学級の実態に合わせて指導を継続していくことが重要です。子どもたちが人権感覚を身に付け、磨き、自分の大切さとともに他の人の大切さを認められるような学校づくり、学級づくりに取り組んで参ります。

生活科「とびだせ！町のたんけんたい」

(2年主任)

2年生では、自分たちの町って、どんな町だろう。何があるかな？どんな人がいるかな？と、町を探検しています。学習ボランティアの方にもご協力いただきながら、クラスごとに、学校の周りを2コースに分けて、みんなで巡ります。そうすることで、自分の住んでいる町に関心を持ち、知ったことや気付いたことをいろいろな方法で、まとめていきます。この学習を通して、自分たちの町への愛着心を持ち高めてほしいと思います。